

区分	プログラム	講師 * 敬称略、所属は収録時情報		収録(上段) 公開(下段)
基礎研修 (1)(2) 該当科目	がん対策	厚生労働省健康局 がん・疾病対策課	笠原 真吾	2020年6月 2021年2月
	相談支援	愛媛大学医学部附属病院	塩見 美幸	2020年11月 2021年2月
	社会資源	国立がん研究センター東病院 サポーターケアセンター ／がん相談支援センター	坂本 はと恵	2019年9月 2020年1月
	臨床腫瘍学	国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科	下井 辰徳	2020年6月 2021年2月
	緩和ケア	国立がん研究センター中央病院 緩和医療科	石木 寛人	2021年10月 2022年2月
	精神腫瘍学	国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科	小川 朝生	2020年6月 2021年2月
	放射線治療	国立がん研究センター中央病院 放射線治療科	井垣 浩	2019年6月 2020年1月
	薬物療法	国立がん研究センター中央病院腫瘍内科	野口 瑛美	2021年10月 2022年2月
	がん予防	国立がん研究センター社会と健康研究センター 予防研究部	井上 真奈美	2020年6月 2021年2月
	がん検診	国立がん研究センターがん対策研究所 検診研究部検診実施管理研究室 がん医療支援部検診実施管理支援室	高橋 宏和	2021年8月 2022年2月
	診療ガイドライン・エビデンス	国立病院機構九州がんセンター 国立がん研究センターがん対策情報センター	藤 也寸志 櫻井 雅代	2020年6月 2021年2月
	支持療法	国立がん研究センター中央病院 患者サポートセンター	藤井 恵美	2019年6月 2020年1月

	臨床試験	国立がん研究センター中央病院 臨床研究支援部門 研究企画推進部多施設研究支援室	江場 淳子	2019年6月 2020年1月
	肺がん	国立がん研究センター中央病院呼吸器内科	新野 祐樹	2021年10月 2022年2月
	乳がん	国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科	野口 瑛美	2019年6月 2020年1月
	大腸がん	国立がん研究センター中央病院 消化管内科	高島 淳生	2019年6月 2020年1月
	胃がん	国立がん研究センター東病院 消化管内科	小谷 大輔	2020年7月 2021年2月
	相談対応の質評価	国立がん研究センター がん対策情報センター	志賀 久美子	2020年9月 2021年2月
	肝胆膵がん	国立がん研究センター中央病院 肝胆膵内科	奥坂 拓志	2019年6月 2020年1月
	がん情報サービスの使い方	国立がん研究センター がん情報サービス サポートセンター	宮本 紗代	2021年11月 2022年2月
	ヘルスリテラシーと意思決定支援	聖路加国際大学大学院看護学研究科看護情報学分野	中山 和弘	2022年1月 2022年2月
	がんゲノム医療	国立がん研究センター中央病院先端医療科	小山 隆文	2022年1月 2022年2月

基礎研修 (1)(2)以外 の科目* 継続研修 のみで提 供する科 目	血液がん	国立がん研究センター中央病院 血液腫瘍科	棟方 理	2021年10月 2022年2月
	婦人科がん	国立がん研究センター中央病院 婦人腫瘍科	加藤 友康	2019年6月 2020年4月
	泌尿器がん	国立がん研究センター中央病院 泌尿器・後腹膜腫瘍科	松井 喜之	2019年6月 2020年4月
	食道がん	国立がん研究センター東病院 消化管内科	小谷 大輔	2020年7月 2021年6月
	AYA世代とがん	名古屋医療センター 小児科	前田 尚子	2019年6月 2020年4月
	高齢者が『がん』 になること	長野市民病院 横川 史穂子	横川 史穂子	2020年11月 2021年6月
	家族が『がん』にな ったとき	長野市民病院 横川 史穂子	横川 史穂子	2020年11月 2021年6月
	妊孕性	亀田メディカルセンター 臨床心理室 生殖医療科	奈良 和子	2021年10月 2022年2月

区分	プログラム	講義内容詳細	内容分類
基礎研修 (1)(2) 該当科目	がん対策	<p>がんはわが国の死因の第1位であり、約2人に1人ががんになる。本講義では、国ががん対策基本法に基づいて策定しているがん対策推進基本計画と、第3期がん対策推進基本計画に沿った国のがん対策の概要を紹介する。具体的には、これまでのがん対策の経緯、第3期基本計画の概要、がん診療連携拠点病院等の指定要件、がんに関する相談支援・情報提供、地域連携、がん患者・経験者の就労支援を紹介する。</p> <p>【キーワード】がん対策基本法、第3期がん対策推進基本計画</p>	基盤科目
	相談支援	<p>がん専門相談員は、患者や家族等の相談者がその人らしい生活や治療選択ができるように支援することを役割とする。本講義では、日本のがん対策の中でのがん専門相談員の位置づけを歴史的経緯を踏まえて説明した後、がん専門相談員にとって業務の指針となる、がん相談支援センターやがん専門相談員に求められる基本姿勢、International Cancer Information Service Group (ICISG)の“Core Values”、がん相談10の原則、がん相談支援のプロセスについて詳しく解説する。</p> <p>【キーワード】がん専門相談員、基本姿勢、CoreValues、がん相談10の原則、がん相談支援のプロセス</p>	基盤科目
	社会資源	<p>がん患者とその家族は、がん罹患することにより、様々な社会的・経済的問題を抱える。本講義では、がん患者と家族が持つ社会的・経済的問題を解決するために有用である社会資源の種類とそれらの特徴を紹介する。また、具体的事例を紹介するとともに、社会資源の利用を推奨する際の留意点について解説する。</p> <p>【キーワード】社会資源、公的制度、社会的・経済的問題</p>	基礎科目
	臨床腫瘍学	<p>各種がんの治療を理解するためには、がんの基礎知識を踏まえた治療の基本的な考え方を理解しておく必要がある。本講義では、がんの発生要因、がんの性質、検査から治療までの流れとともに、近年の治療の流れであるプレジジョンメディシンについて概説する。</p> <p>【キーワード】ゲノム、遺伝子、発がんの要因、腫瘍、TNM分類、検査、手術、放射線治療、がんゲノム医療、プレジジョンメディシン</p>	基礎科目
	緩和ケア	<p>緩和ケアとは、生命を脅かす疾患に罹患した患者、家族、介護者の様々な苦痛を予測、予防、軽減し、QOLを高めることである。本講義では、緩和ケアの定義の変遷を概観し、緩和ケアの目標、対象、現状（病棟数や病床数）、基本的緩和ケアと専門的緩和ケアの相違、療養場所、疼痛の評価法、オピオイドの実態を紹介する。</p> <p>【キーワード】緩和ケアとは、緩和ケアの目標・対象、専門的緩和ケア、療養場所、強オピオイド</p>	基礎科目

精神腫瘍学		<p>がん患者・家族は、あらゆる時期において精神心理的苦痛を抱えている。精神心理的苦痛に対応するためには、その苦痛を的確にアセスメントをし、情報提供や情緒的サポートを提供するとともに、必要な専門的支援につなぐ必要がある。そのために必要な知識や支援の方法を概説する。</p> <p>【キーワード】精神腫瘍学、診断時からの支援、治療と一体となった支援、緩和ケア的アプローチ、精神疾患を持つ患者・高齢がん患者の支援、家族支援、尊厳をもって安心して暮らせる社会の構築</p>	基礎科目
放射線治療		<p>放射線治療は、手術・化学療法と並んで、がんの三大治療の一つである。本講義では、放射線治療の目的や放射線治療の装置と特徴等の基本的知識、サイバーナイフや粒子線といった最新の放射線技術、各種がんにおける放射線治療の目的、放射線治療の流れとスケジュール、放射線治療の副作用と対策、そして費用について解説をする。</p> <p>【キーワード】放射線治療、IMRT、放射線治療装置、粒子線、根治治療、緩和治療、治療開始までの流れ、副作用、費用</p>	基礎科目
薬物療法		<p>がん薬物療法の目的、がん薬物療法薬の種類、がん薬物療法の実施、がん薬物療法薬の副作用について紹介する。</p> <p>【キーワード】全身療法、集学的治療、がんの根治、生存期間の延長、QOL の改善</p>	基礎科目
相談対応の質評価		<p>がん相談支援センターで求められる品質基準を満たすためには、品質管理と品質保証が重要である。本講義では、それぞれの具体的な内容を概説し、特に相談対応の質の保証(Quality Assurance)について、がん相談対応評価表が作られた目的や経緯と使用方法やルール、自施設で相談対応モニタリングを行う際の準備や進め方について紹介する。</p> <p>【キーワード】組織における品質管理と品質保証活動、Cancer Information Service (CIS) のための“Core Values (基本姿勢) ”、がん相談 10 の原則、がん相談対応評価表、がん相談対応モニタリング</p>	実践応用科目
がん情報サービスの使い方		<p>がん情報サービスウェブサイトは、相談員にとって情報支援の重要ツールである。また、確かで安心安全なサイトとして、相談者との共通言語ともなりうるものである。2021 年のサイトリニューアルを機に、患者家族が主体的に意思決定できる一助として活用できるよう、サイトの情報収集の仕方、相談支援に活用する具体例などを解説する。</p> <p>【キーワード】がん情報サービスとは、確かながんの情報、がん情報サービスウェブサイトの活用法</p>	基礎科目
診療ガイドライン・エビデンス		<p>患者や家族は、科学的根拠に基づく信頼できる情報を入手することにより、その人らしい生活や治療選択が出来るようになる。本講義</p>	実践応用科目

		<p>では、先ず私たちを取り巻く医療情報と、診療ガイドラインについて紹介する。その後、がん専門相談員が目指す情報支援、ヘルスリテラシー、相談者に合わせた情報の伝え方について考察する。</p> <p>【キーワード】 インターネット、書籍、エビデンス、診療ガイドライン、CQ形式、推奨グレード、情報支援、ヘルスリテラシー</p>	
	ヘルスリテラシーと意思決定支援	<p>ヘルスリテラシーとは、健康情報を入手し、理解し、評価し、活用するための知識、意欲、能力であり、生涯を通じて生活の質を維持・向上させるものである。日本人はヘルスリテラシーが低く、健康情報を評価、活用する「意思決定」が困難である。自律的な自己決定を支援するためのシェアードディシジョンメイキングや最新の意思決定ガイドを紹介する。</p> <p>【キーワード】ヘルスリテラシーとは、日本人のヘルスリテラシー、がん情報の質と評価、意思決定、シェアードディシジョンメイキング、意思決定支援、自己決定</p>	基礎科目
	支持療法	<p>がん治療をおこなうにあたって、副作用や合併症の出現は不可避である。本講義では、先ずがん患者の多様な気がりや困りごとを、データに基づいて解説する。次に、手術療法・化学療法・放射線療法でおこりやすい副作用・合併症と、それぞれの症状に対するケアや日常生活上の工夫について具体的に紹介する</p> <p>【キーワード】がん治療、支持療法、副作用、合併症、悪心・嘔吐、末梢神経障害、皮膚障害、口内炎、脱毛、リンパ浮腫</p>	実践応用科目
	臨床試験	<p>最良の治療である標準治療の確立をするためには、臨床試験が必要となる。本講義では、先ず治療開発における臨床試験の位置づけや臨床試験の種類、臨床試験情報の探し方と日本の臨床試験登録システムについて紹介する。また、仮想事例をもとに、患者からの臨床試験の相談対応の方法を解説する。</p> <p>【キーワード】臨床試験、標準治療、第Ⅰ相試験、第Ⅱ相試験、第Ⅲ相試験、治験、未承認薬、適応外薬、先進医療、患者申出療養、拡大治験、臨床試験登録システム</p>	実践応用科目
	がんゲノム医療	<p>がんゲノム医療は第3期がん対策推進基本計画の中に明記され、ゲノム医療を必要とするがん患者が全国どこにいても受けられるような体制整備が目指されている。本講義では、がん遺伝子・遺伝子パネル検査、検体、検査後の治療選択について紹介する。</p> <p>【キーワード】がんゲノム医療の提供体制、遺伝子、遺伝子パネル検査、リキッドバイオプシー、未承認薬・適応外薬</p>	基礎科目
	がん予防	<p>日本人における科学的根拠に基づくがん予防法として、喫煙、飲酒、食生活、感染、体型、身体活動に対する5つの健康習慣が、がんになるリスクをほぼ半減させることがわかっている。がん予防の大部分は日常生活の改善でできるため、私たちは巷の情報におどらされず、がん予防の考え方を正しく理解し、伝えていくことが必要である。</p>	実践応用科目

		【キーワード】 科学的根拠に基づくがん予防	
	がん検診	<p>がん検診は適切な実施により確実な効果が得られることから重要な役割を担っている。一定の集団を対象として、がん罹患している疑いのある者や、がん罹患している者を早めに発見し、必要かつ適切な診療につなげることにより、がんの死亡者の減少を目指すものである。がん検診の基本的事項、関係する法と計画、検診の利益不利益、有効性評価、精度管理、注意点、相談員に期待する役割について等の講義である。</p> <p>【キーワード】 対策型がん検診、がん検診ガイドライン、がん検診受診率</p>	実践応用科目
	肺がん	<p>肺がんは日本人に多いがんのひとつで、男性の死亡率としては最も多く、女性では大腸がんについて2番目に多い、未だ予後が不良ながんである。根治を目指した治療では手術や化学放射線治療が選択され、延命治療としては薬物療法が選択される。薬物療法は分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬などの薬剤の開発が今後も期待される。今回は肺がんについての一般的な経過について概説する。</p> <p>【キーワード】 肺がんを理解するための基礎知識、肺がんの検査・診断、肺がんの治療</p>	各論専門科目
	乳がん	<p>乳がんの罹患者数は増え、女性の11人に1人は乳がんを患っている。本講義では、乳房の構造と乳がん、日本における乳がんの罹患率と死亡率、乳がん発症に関連する因子、乳がん検診について紹介する。次に、乳がんの症状、マンモグラフィや病理組織学的検査といった乳がんの検査、乳がんの診断と分類を概説する。治療では、乳房再建術を含めた手術療法、放射線療法、薬物療法を、そして妊孕性温存や化学療法の費用について紹介する。</p> <p>【キーワード】 乳房、マンモグラフィ、サブタイプ分類、早期乳がん、乳房再建術、進行・再発乳がん、内分泌療法、免疫チェックポイント阻害剤</p>	各論専門科目
	大腸がん	<p>ここ50年で大腸がんによる死亡数は約10倍増加している。本講義では、大腸がん部位別発症頻度や大腸癌の死亡数・リスク、診断や分類等についてまず解説する。次に、進行度別治療法を紹介した上で、大腸がんの治療法を具体的に説明する。手術では内視鏡や人工肛門増設術等について、化学療法では用いられる薬剤の成績と副作用について、最後に一般的な質問事項について説明する。</p> <p>【キーワード】 内視鏡、内視鏡的治療、ストーマ、術後補助療法、切除不能再発大腸がん、副作用、緩和ケア</p>	各論専門科目

	胃がん	<p>胃がんは男女共に頻度の高いがんの 1 つで、がんの死亡数では男性第 2 位、女性第 4 位となっている。本講義では、先ず胃がんを理解するための基礎知識として、死亡数・生存率・危険因子を紹介する。その後、検診・診断・進行度分類を含めた胃がんの診断について、治療アルゴリズム、各治療の内容を紹介する。</p> <p>【キーワード】胃がんを理解するための基礎知識、危険因子、検診、進行度分類、治療アルゴリズム、手術、薬物療法、放射線治療</p>	各論専門科目
	肝胆膵がん	<p>肝がん、胆道がん、膵がんは、いずれも難治性のがんである。本講義では、これら 3 つのがんの原因や診断・治療について、それぞれ概説していく。具体的には、肝がんでは肝炎と肝がんの関連、ラジオ療法等の局所治療を含めた治療法、医療費、胆道がんでは診断、治療法の選択と内容（特に化学療法の進歩）、膵臓がんでは診断、治療を切除例・局所進行例・遠隔転移例・免疫療法にわけて解説する。</p> <p>【キーワード】肝がん、肝炎、局所療法、胆道がん、膵がん、免疫療法</p>	各論専門科目

区分	プログラム	講義内容詳細	内容分類
基礎研修 (1)(2)以外の科目 *継続研修のみで 提供する 科目	血液がん	<p>本講義では血液がんの三大疾患である白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫の検査、病態および治療の概論を解説する。血液がんは多くの病型が存在し、予後や治療方針もそれぞれ異なる。近年新たな分子標的薬が数多く登場し治療効果の改善が見られている一方、再発・難治性の場合の治療成績は十分とはいえず、今後の治療開発が期待されている。</p> <p>講義内容【キーワード】血液がん、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫</p>	各論専門科目
	婦人科がん	<p>婦人科がんは女性に特有のがんであり、子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がんそれぞれの特徴を持っている。本講義では、子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がんの進行期分類や治療、症状や検査について説明する。最後に、婦人科がんの統計・HPV や HPV ワクチンを含めたリスク・治療成績、術後生じうる合併症について概説する。</p> <p>【キーワード】子宮頸部円錐切除、単純子宮全摘術、広汎子宮全摘術、死亡</p> <p>率、罹患率、HPV、術後合併症、リンパ浮腫、排尿障害</p>	各論専門科目
	泌尿器がん	<p>泌尿器がんでは、前立腺がん・膀胱がん・腎臓がんのそれぞれの特徴を紹介する。これら 3 つのがんの疫学・検査と診断の流れ・臨床病期分類・治療選択・治療にともなう副作用や合併症について解説する。前立腺がんでは監視療法や手術支援ロボット、IMRT や粒子線・組織内照射、膀胱がんでは膀胱内注入療法や尿路変向、腎がんでは凍結療法や新しい分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤等、各がんでの特有の事項を紹介する。</p> <p>【キーワード】監視療法、手術支援ロボット、IMRT、粒子線、組織内照射、内分泌療法、膀胱内注入療法、尿路変向、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤</p>	各論専門科目
	食道がん	<p>食道がんは男性に多いがんとして知られており、がん死亡数では男性第 8 位、女性第 15 位となっている。本講義では、先ず食道がんを理解するための基礎知識として、死亡数・生存率・危険因子を紹介する。その後、検診・診断・進行度分類を含めた食道がんの診断について、治療アルゴリズム、各治療の内容を紹介する。</p> <p>【キーワード】食道がんを理解するための基礎知識、危険因子、検査、進行度分類、治療アルゴリズム、手術、薬物療法、放射線治療</p>	各論専門科目

AYA 世代とがん	<p>第 3 期がん対策推進基本計画の分野別施策で AYA 世代が取り上げられ、近年 AYA 世代のがんが注目されている。本講義では、AYA 世代の特徴・AYA 世代のがんの特徴・AYA 世代のがん治療の問題・AYA 世代がん患者のニーズ・AYA 世代がん患者の支援体制の構築・就学支援や就労支援・晩期合併症と長期フォローアップについて概説する。</p> <p>【キーワード】AYA 世代、ニーズ、医療費、ピアサポート、就学支援、就労支援、晩期合併症、長期フォローアップ</p>	実践応用科目
高齢者が『がん』になること	<p>がんの年代別割合は 70 歳以上の高齢者が半数を超える。高齢者のがん治療ではリスク評価が確立しておらず、治療の差し控えや不適切な意思決定も懸念され、支える家族の負担も大きい。高齢者総合的機能評価(CGA)や高齢がん患者の特徴を概説し、相談支援の実際を考えていく。</p> <p>【講義キーワード】フレイル、高齢者総合的機能評価 (CGA)、認知症、意思決定支援</p>	実践応用科目
家族が『がん』になったとき	<p>がん患者のみならず、家族も患者同様にまたそれ以上に影響を受け負担が生じる。家族は、患者を援助する立場であるとともに援助を必要とする立場でもある。がん患者の家族に生じる心、体、暮らしを概説し、家族支援のアセスメントについて学ぶ。</p> <p>【講義キーワード】第 2 の患者、家族アセスメント、対応能力、発達課題、適応、情報、セルフケア機能</p>	実践応用科目
妊孕性	<p>第 3 期がん対策推進基本計画には、小児がん、AYA 世代のがん対策、ライフステージに応じたがん対策として生殖機能温存が含まれており、生殖機能温存等の情報提供、相談支援、診療体制の整備が求められると明記されている。2018 年には地域がん診療連携拠点病院の指定要件の中に、がん相談支援センターの機能としてがん治療に伴う生殖機能の影響や妊孕性温存に関する相談に対応する事が含まれた。妊孕性温存の相談において大切な事は、がん患者が適切な時期に正確な情報提供をされ、がん治療施設、生殖医療施設、多職種からの支援を受けながら、妊孕性温存についての意思決定支援を行うことである。</p> <p>この講義では、それらの支援を行うための基本的な知識、方法、助成金の制度、そして心理支援について解説する。</p> <p>【キーワード】がん・生殖医療、がん・生殖医療ガイドライン、妊孕性 (生殖機能)・妊孕性温存療法について、がん・生殖医療を行っている施設、がん・生殖医療の助成金、がん・生殖医療の心理支援</p>	実践応用科目